

# 第8回教育委員会定例会議事要録

詳細—教育部庶務課 電話03-3981-1141

附属機関又は 会議体の名称	第8回教育委員会定例会議事要録	
事務局(担当課)	教育部庶務課	
開催日時	令和5年8月8日 午前10時10分	
開催場所	教育委員会室	
出席者	委員	金子 智雄(教育長)、 樋口 郁代(教育長職務代理者)、酒井 朗、村瀬 愛、大澤 誠
	その他	教育部長、庶務課長、学務課長、放課後対策課長、学校施設課長、指導課長、教育センター所長
	事務局	庶務課庶務グループ係長、庶務課庶務グループ係員
公開の可否	一部公開 傍聴人 20人	
非公開・一部公開 の場合は、その理由		
会議次第	第36号議案 豊島区立学校教科図書採択について(指導課)	

休憩時間：00：00

終了時間：15：55

# 第8回教育委員会定例会議事要録

開催日 令和5年8月8日  
開催場所 レクチャールーム

事務局)

本日、皆様おそろいでございます。お願いいたします。

本日、傍聴の方、20名いらっしゃいます。宜しくお願いします。

金子教育長)

おはようございます。第8回教育委員会定例会を開催いたします。

本日の署名をお願いいたします。村瀬委員、大澤委員、宜しくお願いいたします。

村瀬委員)

お願いします。

金子教育長)

本日、傍聴の申込み20名ということでございますが、宜しいでしょうか。

(委員全員了承)

金子教育長)

お入りいただいて結構です。

<傍聴者入場>

金子教育長)

それでは、事務局より傍聴者の皆様へ注意事項をお伝えください。

庶務課長。

<庶務課長 注意事項説明>

(1) 第36号議案 豊島区立学校教科用図書採択について

金子教育長)

只今より、令和6年度から使用いたします小学校教科用図書の審議を行います。

それでは、配付資料の確認を事務局をお願いいたします。

庶務課長。

<庶務課長 資料説明>

金子教育長)

次に、令和6年度使用教科用図書の審議までの経過について、教育部長よりご説明いただきます。

教育部長。

<教育部長 資料説明>

金子教育長)

ご説明ありがとうございます。

それでは、ここで、審議の方法について、お諮りをいたしたいと思います。既にご承知の通り、東京都への採択結果報告期限である8月31日までの間は、審議の過程に関する内容について、守秘義務が課せられております。そのことから、教科書会社名を伏せて審議を行ってきたことが以前ございました。しかしながら、審議内容が分かりづらいといったご意見も寄せられたこともあり、令和2年度教科用図書審議会に引き続き、今回についても、教科書会社名を明らかにして、審議をいたします。審議後、明日の第8回臨時会で採択会社名を確認いたします。

また、採決の方法につきましては、公平で公正な採択を行うため、無記名投票により行いたいと思います。

これについて、ご意見ございますか。

宜しいでしょうか。

(委員全員異議なし)

金子教育長)

それでは、教科書会社名を明らかにし、無記名投票により採択するということにいたします。

なお、投票の結果が分かれて、過半数を超えるものがない場合は、投票数の多いものを尊重しつつ、再度審議の上、決定をしてまいりたいと思います。

それでは、小学校教科書の審議に入りたいと思います。

審議の手順について、事務局からご説明をお願いします。

指導課長。

<指導課長 資料説明>

金子教育長)

宜しいでしょうか。

それでは、算数の選定資料について、早速、始めたいと思います。

事務局より説明をお願いします。

指導課長。

<指導課長 資料説明>

金子教育長)

説明が終わりました。

それでは、事前にも委員の皆様にはよくご覧いただいておりますが、改めまして、閲覧をいただく時間を9分程取らせていただきます。お読みいただいた後に、質疑応答したいと思います。宜しくお願いいたします。

<教科書閲覧>

金子教育長)

委員の皆様にご意見、ご質問いただきたいと思います。宜しくお願いいたします。

いかがでしょうか。

どうぞ、樋口委員。

樋口委員)

意見を申し上げます前に、現在、来年度からの教科書をこうして今審議をさせていただく重責を担っております。ありがとうございます。

今回は、学習指導要領が変わらない中での新たな教科書採択であるということを、改めて感じ入りまして、学習指導要領をもう一回読み込んでみました。そうした中で、どの会社におかれましても大変工夫をなさって、子供たちの学びを支えようとしていることがよく分かりました。

現行使われているものと、今、新たなものと比べてみると、それぞれの会社によって、この教材はどのように差し替えた方がいいのではないかという工夫ですとか、写真等々についてもなるべく新しく必要なものという、ご配慮も見られました。それぞれの発行者様におかれましては、様々なご工夫をしてくださっていることに心から感謝を申し上げたいと思っております。また、学校の先生方におかれましては、調査委員会、選定委員会と、学校教育のある中で、本当に真剣に取り組んでいただけたと思っております。そのことについても、心から感謝申し上げます。また、教科書展示におかれまして、暑い中をそれぞれの教科書を見ていただきました保護者や地域の皆様にも心より御礼を申し上げたいと思っております。ありがとうございます。

さて、私は基本的なことを、次のようにいつも考えております。授業は、子供たちが分かるから楽しいのだと思います。分かるということによって、自信も生まれ、それが自己肯定感にも繋がっていきます。では、子供たちが分かる教科書ということは、子供の学びたいという意欲ですとか、気持、やる気などを支える教科書であってほしいです。子供が自ら学びたい、「この教科書なら、チャレンジしてみようかな。」そのようなことを考えてくれるような教科書を選びたいと思っております。その前提となるのは、子供を導いていく先生方にとっても、指導や支援のしやすいものであるところです。

そのように考えましたときに、一番大切なのは、この教科書をどのように学んでいけばいいのかということの子供の視点からも学び方が分かるようなものでなければいけないと思います。この点に関しましては、各社、本当に工夫いただいているところですが、より子供にとって、教員にとって分かりやすい。それから、指導の工夫があると申しませうか、そういうものをしっかりと分かりやすく書き込んでいらっしゃるところを私は採択していきたいと思っております。

豊島区の教育委員会の教育目標や基本方針は、幾つかの窓口を設けておりますが、人権の尊重と豊かな心を育むこと、確かな学力の定着と豊かな個性を伸長すること、一人ひとりを大切にするということ、このような基本方針と合致しているものを選びたいと思っております。そうした意味からも人権上の配慮ですとか、特別支援教育に関わっての大切な視点などはもとよりでございます。

それから、デジタル教科書ですとか、今回、各教科書、QRコードがたくさんついてお  
りまして、これは今回の審議に当たっては、参考程度とさせていただいております。しか  
しながら、教科によっては、そののところも、少し関連するものもあろうかと思いま  
した。前置きが長くなりました。では、算数について、私の意見を申し上げます。

1年生のところは、やはり保育園や幼稚園児だった子供たちが小学校というわくわくす  
る中において、「算数好きだな。」「えっ、それって、僕にも出来るの。」「私もやっ  
てみたいな。」と思わせるものですから、1年の一番初めのスタートのところを分かりやす  
く、親しみの持てるもの、そういうことを大事にしたいと思っています。数字を書くとい  
うことがとても大事な操作となると思いますので、数字を書くところもしっかりと出来  
ているものがありました。

なお、学び方のところについては、各社、非常に工夫をなさっていらっしゃると思いま  
すが、その中でも、具体的で学び合いが出来るものを大事にしたいと思いました。

一つ、単元を例に取ります。5年生の、多くは下巻のところにあります。いわゆる、  
分数と分数を足したり、引いたりするという通分のところでは、子供たちが非常に悩んで、  
つまずきの多いところであると私は認識しています。その部分を各社全部調べてみまし  
た。計算が出来ればいいのではなくて、なぜそうなるのか、分母を最小公倍数でそろえ  
るのはどのようにしたらいいのかという思考が分かりやすく、しかも、自分の中で納得し  
て終わりではなくて、それを友達にも説明出来るように、発問の工夫があるといいと思っ  
ています。もちろん算数科ですから、たくさん問題を正確に迅速に解くのはもちろんです  
が、その前段階においての通分の考え方を発問するとき、なぜこのようにそろえる必要  
があるのか、そろえるとはどういうことなのか、それを説明しようという問いの発し方  
をしているものが私にはいいと思いました。

今のようなことを考えたときに、私は、東京書籍、啓林館あたりの教科書にそれが当て  
はまる、ふさわしいと思ったところです。

金子教育長)

他にご意見、ご質問ございましたらお願いいたします。

宜しいですか。

それでは、ないようでしたら、算数について、お手元の色刷りの投票用紙で投票をお願  
いしたいと思います。宜しくお願いいたします。

<委員投票、確認>

金子教育長)

只今ご確認いただきました通り、過半数を超えるものがありましたので、これで算数に  
ついての審議を終了いたします。

それでは、ここで、教科書の入替えの関係で、10分程休憩を挟みたいと思います。

金子教育長)

それでは、社会の選定資料について、事務局よりご説明をお願いします。

指導課長。

<指導課長 資料説明>

金子教育長)

説明が終わりました。先程と同様に、最終確認ということで、ご覧いただきたいと思います。5分程、時間を取りたいと思います。宜しくお願いします。

<教科書閲覧>

金子教育長)

宜しいですか。

それでは、委員の皆さんにご意見、ご質問いただきたいと思います。宜しくお願いします。

どうぞ、村瀬委員。

村瀬委員)

各出版社の教科書全て、写真がとてもきれいだと感じました。

豊島区はSDGsモデル都市ということもあり、特に、SDGsに力を入れようとしているというのもあるので、SDGsのことをより多く取り上げているところが良いと思っています。

教科書の使い方がとても丁寧に書かれているところがあり、特に、教育出版は、使い方、学習の仕方などを丁寧に6ページにわたって書いているので、子供たちが自分で学んでいくという足がかりになるのにとっても良いのではないかと思います。

縄文時代と弥生時代について、子供たちは、絵で見て、目で見て、いろいろなことを感じる人が多いので、文字を読むのが得意ではない子も比べやすいという点が良いと思っています。各出版社の縄文時代、弥生時代全て、今回近くにありまして、表裏だったり、隣のページだったり、見開きで大きく、東京書籍は右と左という感じで、本当に目に入ってくる、とても工夫されていると感激しました。東京書籍、学び方もすごく丁寧に書いてありまして、他とは違うと思ったことが、やはり歴史と政治・国際が別の本になっているので、振り返るときに何を振り返るかというのが、子供にとって分かりやすいと思いました。

日本文教出版も、SDGsのステッカーがありまして、これは身近に感じますし、とてもインパクトを感じて、どれにするか悩みました。

関東の写真が多い方がいいのか。いろいろなことを思いながら、考えて考えて、結果的に、どの会社もすばらしいので、子供としては、分からない言葉がどんどん出てくるので、索引で調べてみたらと子供に自分で調べるように促すときに、「索引を見てみたら、どこに書いてあるか分かるよ。」と言いますが、その索引の、この学年で習う言葉だけでなく、幅広い学年で習う言葉も全て載せてある、索引の量的に多い会社を選びました。

金子教育長)

他にございますか。

どうぞ、酒井委員。

酒井委員)

本当に今の教科書は、色鮮やかで、写真も多くて、資料的な価値も非常に高く、授業の中で、いろいろな形で展開出来ると思いました。一方で、少し重くなり過ぎていて、これを子供が持っていくのは大変だと感じます。もっと軽い紙が出来ないのかと思ったりもします。これは全体的な感想です。

私としましては、社会科は、随分前になります。生活科が出来て以降、やはり生活科との繋がりというのが、非常に重要なポイントだと思います。この生活科から社会科、理科もそうですが、橋渡しがきちんと踏まえているのかというのが一つ大事なポイント、導入としては、非常に大事なポイントではないかと思いました。

もう一つは、問題解決力を高めるということで、やはり、自ら主体的に学習に向かう、学習の進め方が明確に書いてあるかどうかということが非常に重要で、その点で、やはり教育出版の教科書ははっきり分かる、そういった生活科の流れでいきますと、東京書籍と教育出版は、かなりそこが押さえられていると思いました。

もう一点、少し愚痴っぽくなりますが、社会科は社会科だと思っていまして、地歴公民ではないというのがあります。教科書を歴史、政治・国際編と歴史編に分けるというのは、個人的には、私はやはり社会科を解体していく方向になっていくのではないかということで、これには違和感がありました。

金子教育長)

他にございますか。

それでは、ないようですから、社会について、投票をお願いします。

<委員投票、確認>

金子教育長)

では、只今ご確認いただきました通り、過半数を超えるものがございましたので、これにて、社会についての審議を終了いたします。

それでは引き続き、地図の選定資料について、事務局よりご説明いただきます。

指導課長。

<指導課長 資料説明>

金子教育長)

ご説明終わりました。2社ですので、3分ぐらいでいいですか。最終ご確認をお願いいたします。

<教科書閲覧>

金子教育長)

それでは、ここで皆さんから意見、ご質問いただきたいと思います。

いかがでしょうか。

村瀬委員。

村瀬委員)

地図は、今、スマホで全部出てくる時代なので、あえて地図を読むようにもなっほしいと親としては思っています。昔は、自分が行く先、地図を見て、車で運転出来るようなシミュレーションを自分で立ててから行っていました、今はナビで全部が勝手に出てくる時代になりました。それが動かなくなった時のことまで考えなければいけないかは分かりませんが、親としては、昭和の時代に生きていたこともあり、携帯がなくても生きていってほしいと思います。この二つの地図、両出版社ともよく出来ていて、内容的に本当にどうするかというのが難しいですが、個人的には、東京書籍の外側のつや感はずごく好きです。中の地図が東北地方と関東地方が全部載っているページがありますが、その裏のページが両社ともクローズアップした関東です。1社は縦に東京を取っていて、もう1社は横に東京の首都圏を取っていますが、この取り方がとても個性的で、これも好き嫌いになるのかもしれませんが、代表的な建物が絵で書いてあるなどして、とても分かりやすいと思いました。

地図なので、上が北と教えるというのもあるので、取り方によっては難しいかもしれませんが、まず、地図を始めるという子たちにとっては、常に北が上であってほしいと思います。

金子教育長)

他にございますか。

樋口委員。

樋口委員)

正確さというところではもちろん両方とも遜色ないと思っておりますが、ぱっと見たときに、今、見開きのページを見ましたが、少し違和感がある部分が私にはありました。正確で、それから、小学生が使うので、ちょっとした産業の印とか、みかんの印があったりとか、そういうものは手助けにはなりますが、それが邪魔をしないこと、あくまでも地図である。明確に、石川県はこういう場所にこのような所にあるというのが出てくるのがいいと思います。

私は、帝国書院の方を評価させていただきます。

金子教育長)

他にございますか。

宜しいですか。

それでは、地図につきまして、お手元の色刷りの投票用紙で投票をお願いいたします。投票を終えられましたら、同じように、グレーのファイルに挟んで、机の端にお置きください。

< 委員投票、確認 >

金子教育長)

只今ご確認いただきました通り、過半数を超えるものがありましたので、これで地図



についての審議を終了いたします。

教科書の入替えがございますので、少々お待ちください。

それでは、保健の選定資料につきまして、事務局よりご説明をお願いいたします。

指導課長。

<指導課長 資料説明>

金子教育長)

それでは、また閲覧をしていただきたいと思います。9分程度でお願いいたします。

<教科書閲覧>

金子教育長)

宜しいですか。

それでは、委員の皆さんからご意見、ご質問をいただきたいと思います。宜しくお願いします。

大澤委員。

大澤委員)

コロナは収まったとはいえ、私は薬屋ですが、1日に最低でも5人ぐらいコロナの患者が来ます。落ちていたときよりは10倍以上増えています。大体、そのうち、重症化しそうな方というのは、10人に1人ぐらいですが、やはり手を洗うということは、まず基本的なことで、マスクをしていただくと。原則的に、日本以外の国では、手を洗うというのは、トイレに入った後しか洗わないです。ですから、洗うというのは非常に大事なことなので、そういうことが気になりまして、見させていただきました。

金子教育長)

ありがとうございます。

他にございますか。

どうぞ、酒井委員。

酒井委員)

各社とも非常に内容が豊富で、保健という領域がこれだけ小学校でかなり詳しく教えられるのだと、改めて驚きました。

私は、家庭の中で教えにくく、なかなか知識が広がらない心の問題ですとか、性の問題など、扱いにくいテーマをあえて学校でしっかり教えるのは、非常に大事だと思っています。その点で、心の健康について、詳しく扱っている、かなりウエイトが違っていた。それから、性の問題についても、随分扱いが違っていた。

もう一つ、保健の領域は、他分野との関係、特に家庭科ですとか、理科や、社会はもちろんです。もう一つは道徳です。いろいろな領域とやはり非常に密接に関連しているところで、きちっと明記してあるものというのが、子供にとっても学びやすいと思いました。

金子教育長)

他にございますか。

どうぞ、樋口委員。

樋口委員)

人生100年時代にこれからなっていくという中で、健康というのは本当に大事ですが、子供にとっては、けがをしたときや病気になったときに、初めて自分ごととして捉えるケースはもちろん多いと思います。こうした小学校の3年生の時代から、自分の体を大事にするという視点を持たせるような授業は本当に必要であろうということを改めて感じている次第です。

その上で、1年間、保健にかける時間数はどのぐらいかといいますと、標準ですが、3、4年生は各8時間、5、6年生で各16時間と、比較的少ない時数です。このように少ない時数の中で、自分の健康、心も含めての健康のところで窓口を開かせるためには、確かに情報量がたくさんあるというのは必要かもしれませんが、私はコンパクトでいいのではないか。小学校の健康というところについては、いろいろな窓口をコンパクトに開いていただいて、自分ごととして捉える。そのような習慣づけをしていくことが必要であると思います。

また、自分一人の知識では考えようとしても、なかなか考えられないものですから、友達と話し合ったり、先生と話し合ったりと、考えるだけでなく、話し合うというところに力を入れているという視点も必要であろうし、大事にしたいと私は思いました。

本区は、ISSで、けがの話、自らけがをしないようにというところがあります。そこについての考え方ですとか、コロナ禍の話が出ましたが、この改訂で大きく変わっているところの一つは、感染症、コロナ禍をはじめとするいろいろな感染症の扱いというのは、どれだけ喫緊に考えているかなど、そのようなところを大事にしたいと思いました。

私はコンパクトになっているのは、大修館だと思います。

金子教育長)

他にございますか。

私も感想になりますが、この間の一番の変化という意味で、先程からお話になった感染症の関係がどのように書かれているかというところに注目をいたしました。意外と、差があると感じた次第です。たくさんページを割けばいいわけではないですが、先程おっしゃったような時数の関係もありますので、今なら、子供たちがコロナのことであれば読むのではないかと思います。そういう視点から少し考えていたところでございます。

宜しいでしょうか。

それでは、お手元の色刷りの投票用紙で投票について、お願いいたします。グレーのファイルに挟み、机の端にまた同じように置いていただければと思います。

<委員投票、確認>

金子教育長)

只今ご確認いただきました通り、過半数を超えるものがございましたので、これで保健

についての審議を終了いたします。

では、ここで、少し早いですが、休憩にいたします。前倒しすると、またいろいろご都合が変わるといけないので、再開については、時間がありますが、13時15分から午後の部は再開をいたします。それまで休憩といたします。

宜しくお願いいたします。

<休憩>

(11時45分 休憩)

(13時15分 再開)

金子教育長)

午前中に引き続きまして、令和6年度以降に使用する教科用図書の選定の審議を続けたいと思います。

それでは、国語の選定資料について、事務局からご説明をお願いいたします。

指導課長。

<指導課長 資料説明>

金子教育長)

ご説明ありがとうございます。

ここで教科書の閲覧をお願いいたします。5分程度ということで、お願いをしたいと思います。

宜しくお願いします。

<教科書閲覧>

金子教育長)

ここで、皆さんからご意見、ご質問をいただきたいと思います。宜しくお願いいたします。

酒井委員。

酒井委員)

各会社とも、今のこの学習指導要領改訂の中で、聞く、話す、コミュニケーションを取るということをとても大切にされていて、工夫が凝らされていると感じました。

ただ、聞くこと、話すことの力を育てられる工夫がどのくらいあるのかというのは、考えました。例えば、メモを取るというところが、小学校4年生にありますが、メモを取って、どうするかという展開が各社で違います。光村図書は、メモを取って、メモを使って発表するという展開にします。東京書籍は、メモを取って、質問をするという方向に展開します。教育出版は、そのパートはメモの取り方の工夫というところで終わっていて、また次の単元に持っていくという展開で、やはりメモを取るという行為の捉え方が随分違うと思いました。

もう一つは、国語ですので、物語文というものも非常に大事だと思いますが、例えば、「ごんぎつね」の、最後のまとめのところで、登場人物の気持ちを考えさせる。教育出版

は、ごんの気持ちに焦点化する。でも、私は、この物語は兵十とごんの双方の気持ちを織り交ぜて考えることがとても大事だと思っていて、「どうしてごんにしたのかな。」と思ったりもしました。また、イラストで、ごんが最後に撃たれて、亡くなる場面をイラストにするか、撃たれようとしている場面をイラストにするか。随分、印象が違って、私は、ここは撃たれて、亡くなっているごんの情景を思い浮かべて、次に展開するのではないかと思いました。

ということで、そのようなところを気にしながら読み取りました。

金子教育長)

ありがとうございます。

他にございますか。

樋口委員。

樋口委員)

国語科は、全ての教科の基本になる教科であり、言語活動の中心が国語と英語であると認識しております。そうした中で、今日、午前中の一番初めに申し上げたとおり、子供がどのように学んでいくかということが、きちんと単元の初めに分かるということは非常に重要であると思っています。そういう意味で、国語科の学びをしっかりと子供目線で伝えている光村図書は分かりやすいと思います。

もう一点、「大造じいさんとガン」で少し比べさせていただきたいと思います。

この会社は、人物像について考えたことを伝え合おうという事が、おそらくテーマのように思います。ぱっと見たときに、子供たちは何を考えたらいいかということが、1、2、3ページにわたって、このようにあります。

別の会社は、物語の山場を見つけ、読みを深めよう。これは見通しを持つところの題なのか、それとも、テーマなのかがよく分かりません。テーマとして書いているのかと思いますが、学び方の要素が少し違います。確かめるのは、かなり、書いてある内容を追っている部分が強いような気がしました。

別の会社です。この会社は、全てそうでしたが、問いを持つという事を一番初めに載せています。子供自身が、これで何を考えたいのか、これは不思議だった、1回読んだけどなど、それぞれの子にありますが、そのようなことが出てこない子にも、これはとてもヒントになります。私は国語に限らず、何故とか、不思議とか、ここを考えたいと思うような、子供自身が問いを持つところを明確に押さえながら、目標に繋げているという点でとても分かりやすいし、「大造じいさんとガン」では、見開きのページでもありますし、このようなことを考えるのかというのが一目で分かります。

それから、もう一点、振り返りですが、今回の学習指導要領では、目標が育てたい三つの力の3観点になっていて、指導と評価を一体化するところからすれば、振り返りが目標と連動しているというのは非常に大切なところだと思っています。それがかなっているのは、この光村図書しかありませんでした。知識理解のこと、思考・判断・表現のところ、

そして、主体的な態度のところという、これがあって、初めて学習が目標と振り返りで成立していくのであろうと思うので、私は、このような学びがどうしても必要だろうと思いました。

金子教育長)

他にございますか。

ないようでしたら、この後、国語について、お手元の色刷りの投票用紙で投票の方をお願いいたします。グレーのファイルに挟んで、机の端に置いていただきたいと思います。

<委員投票、確認>

金子教育長)

只今ご確認いただきました通り、過半数を超えるものがございましたので、これで国語についての審議を終了いたします。

それでは、教科書が乗せてありますので、このまま進めます。

書写の選定資料について、事務局よりご説明をお願いします。

指導課長。

<指導課長 資料説明>

金子教育長)

ご説明が終わりました。それでは、書写について見ていただきたいと思います。5分程度とさせていただきます。宜しく願いいたします。

<教科書閲覧>

金子教育長)

それでは、ここで委員の皆さんからご意見、ご質問をいただきたいと思います。宜しく願いいたします。

どうぞ、村瀬委員。

村瀬委員)

各社分かりやすく、字を書く姿勢なども丁寧に写真で分かりやすくなっていると思いました。今回、タブレットのQRコードは含まれないということですが、全てQRコードも見せていただきました。書道を最初にするときなどは、動画があると、文鎮の置き方や、筆のならし方、写真だけでは分からない部分も、動画に載せてくださっているので、とても親切で、分かりやすいと思った次第です。やはり学習の進め方が写真で分かりやすく入っているというのは、文字だけに頼るよりも子供に伝わるのではないかと思いました。

学習のすすめを丁寧に書かれているところを選びました。

金子教育長)

他にございますか。

どうぞ、酒井委員。

酒井委員)

どの教科書もいろいろ工夫がされていて、姿勢からきちんと指導するのは非常にすばら

しいと思いました。書写は、導入が大切だと思いますので、硬筆も、毛筆も導入のところをいろいろ工夫されているとも思いますし、この中でも、鉛筆の持ち方や指導の分かりやすさ、止め、はらいの指導等をいろいろ見ていきますと、硬筆は光村図書の指導のポイントがとてもよく、分かりやすいと感じました。毛筆につきましては、光村図書は、鉛筆と比べて、筆の持ち方を解説しているところがとても分かりやすいと思いましたし、筆遣いについては、教育出版の教科書が筆の始筆、送筆、終筆がきちんと明示されていて、これも非常に良かったと思います。東京書籍は、鉛筆の持ち方で、左用の実物大の写真が非常に大きく出ていて、個人的には非常に嬉しく思いました。私はもともと左利きでしたが、右利きに直された昔の世代なので、左利きの写真があったら左利きのままだったのかなと思いました。

金子教育長)

他にございますか。

どうぞ、樋口委員。

樋口委員)

今やパソコンで文字を打つ時代になっておりますので、自筆で書くということが、日常生活の中で、以前よりは少なくなっているかもしれません。しかしながら、自筆で書くというのは、自分の思いを伝えるという思いがありまして、その方、その方に応じた伝え方があると思います。ですから、私は、パソコンにも、筆を通してとか、何かを通して、自分の思いが何かを媒体にして、文字として現れてくるという大事なものであろうかと思っています。そうした意味で、今、ご指摘のところはもちろんです。加えて、日常生活の中で、書くという動作がいかに結びついているか。小学生にとっては、例えば、他の教科でインタビューをするとか、新聞記者になるとか、国語だけではなく、様々な教科での応用が利くわけです。そういうことを日常生活と絡めながら、「横書きって、このようにすればいいんだ。」とか、「人に話を聞いたことをまとめるときは、こんなまとめ方で、このように表現すればいいんだ。」とか、そういうことが同時に分かるのは、まさに教科横断的であろうというように思っているのです、そのようなところに着目いたしました。

金子教育長)

宜しいでしょうか。

それでは、これ以上ないようでしたら、書写について、お手元の色刷りの投票用紙で投票をお願いしたいと思います。グレーのファイルに挟んで、右端に置いていただきたいと思ひます。

#### < 委員投票、確認 >

金子教育長)

只今ご確認いただきました通り、過半数を超えるものがございましたので、これで書写についての審議を終了いたします。

次の教科に、教科書の入替えをいたしますので、少々、お時間をお待ちください。

それでは、続きまして、道徳の審議に入ります。道徳の選定資料につきまして、まず、事務局からご説明ください。

指導課長。

<指導課長 資料説明>

金子教育長)

ご説明が終わりました。それでは、教科書の閲覧を、確認をお願いしたいと思います。9分間程度取りたいと思います。宜しくお願いします。

<教科書閲覧>

金子教育長)

宜しいですか。

それでは、委員の皆さんにご意見、ご質問をいただきたいと思います。宜しくお願いいたします。

村瀬委員。

村瀬委員)

たくさん会社、出版社がありますが、目次がすっきりしていたり、学び方も、それぞれの出版社のこれがベストというものたくさんありまして、本当に分かりやすいと感心しています。中には、薄い色で分けてあって、私にはとても分かりやすいですが、今、色覚のお子様もいらっしゃいます。薄い色だけで展開すると区別しにくいので、線を1本引くと、色弱の子でも分かりやすいと思います。見た目でももちろん分かりやすく、読んで、どのように教科書が使われているか、学び方がより分かりやすく、きれいな写真などを使って、工夫している会社がたくさんありますが、その中でも、いろいろな子に対して、分かりやすい、これがいいと思った教科書が、東京書籍でした。

金子教育長)

他にございますか。

どうぞ、酒井委員。

酒井委員)

本当に多くの教科書会社から道徳の教科書が出されているということを知りまして、かなり多様だということも分かりました。例えば、目次で、大体のタイトルを中心に載せているところと、どういうテーマについて、ここで扱うのかということがはっきり書いてあるところと、少し色合いが違うということも分かりました。

私自身は、道徳は、やはり道徳的な価値、問題について、自分ごととして考える。それをいろいろ話し合っ、どういうことが大事なのかということを考える。その話し合いの過程というのは非常に大事だと思っています。そうしますと、45分の授業で、あまり長い教材は読むだけで終わってしまうというのが往々にしてあるので、あまり読むのが長いのは扱いにくいと思いました。

自分ごとということで、例えば、6年生で、社会正義というテーマがありますが、社会

正義、偏見や社会正義を扱う際に、身近なテーマで、友達同士の関係で正義を貫くとか、あるいは、コロナの感染症の中での差別とか、偏見という問題を扱うなど、そういう事がある一方で、人権宣言など、偉人とか、そういう方の話を持って来るか、この辺はやはり各社の考え方の違いが表れていると思いました。

それから、いじめの問題は非常に大きなテーマだと思います。これの扱いもかなりいじめの事を扱うということがはっきり分かる教科書と、読んでいくと分かるというものもありまして、この辺も判断のしどころかと思いました。

金子教育長)

他にございますか。

どうぞ、樋口委員。

樋口委員)

道徳が特別の教科になったというところをしっかりと認識する必要があると思います。特別の教科ですから、この教科の中で、子供たちは何について考えるのか。自分のどういう道徳性、道徳性というのは、人としての良さです。どの窓を開けて、自分のことを振り返るのかということが大変大事だと思います。

教材があります。この教材の主人公のこの子は、このときはどんな気持ちでしたかということではなくて、この教材を通して、今日は何を考えたいのか。やはり1時間のめあてがなければいけないと思うのですが、ここの出し方がいろいろだと思います。例えば、「六千人の命のビザ」を考えると、気高い心を持ってとか、正義を貫くとか、いわゆる道徳的価値をもうどこかのところで先に言ってしまって、枠を、フレーミングをしているのはどういうものかと私は思います。

吹き出しで、「自分で出来ることは自分でやっているかな。」というのが、もう教材部のところに書いてあって、何か反省から入っているのかとってしまうのも違うと思います。

すなわち、この時間で何を考えたいのかというねらいがあって、その次に発問構成がしっかりしているということが大事だと思います。何故なら、若い先生はもとより、どちらかという、年齢に関係なく、これは小学校よりも中学校に言えることですが、どういう発問構成にしていけば、自分ごととして捉え、自分も周りの人も納得するより良い方法を考えられるか、より良い気持ちになれるか、そういうことを子供たち一人ひとりが自覚するためには、発問がとても大事だと私は思っています。ですから、その発問構成がいきなり中心発問から入っているということは、基本発問を考えさせなければいけないわけです。ある意味、その基本発問は先生方に委ねますとおっしゃっているのかもしれませんが、全教材を通して、基本発問があって、中心発問があって、最終的に自分の心を見つめて、耕すような自分に引きつけた発問があるという、この構成をしっかりとしている会社が私は良いと思っています。

「ブラッドレーのお母さんのせいきゅう書」というので比べたいと思います。



ここ（書画カメラで示しながら説明、以下同様）のところが発問の構成のところですが、このねらいは何かというのですが、この教科書には、ねらいはありません。東京書籍ですが、よく分からないです。いきなり中心発問があって、これを自分ごととして捉えるというものです。

これは、ここにねらいがあります。家族の一員としての自分を見つめ直す。良いとか悪いとか、まだ何も言っていません。家族の中の自分はどうかということをもってきて、基本の発問があって、中心発問があって、自分を見つめる発問があって、さらにそれを生活の中で生かすというような仕組みになっています。これは光村図書です。このねらいが明確に子供で分かるというところは、ここだけでした。

次は、日本文教出版です。これも「考えよう」のところで、お母さんの請求書の形ですが、内容がよく分からないです。これはいろいろ文が書いてありますが、どれがねらいなのか、いきなり考えてみようの発問構成で、自分ごとということ。ねらいがしっかり受け止められません。

これは教育出版ですが、この会社だけ問題解決型の学習を示しています。こういう考えの下にこの教材を使ったというのは分かるのですが、この教材の性質上、問題解決型をするというのは、私は少し疑問を感じます。この教材の良さは、「どうして自分は請求書を書いてしまったのだろうか、お母さんがどんな気持ちだったのだろうか」と改めて気づいた中で、お母さん、家族のために、それから自分は、家族の一員としてどうかというように考えていきますから、少し無理があると思います。

これは光文社です。ここは、構成としては、基本、中心、そして、自分に生かすというところですが、まとめようというマークが非常に気になります。道徳の時間は、意見をまとめるわけではないです。そういう意味で使っていないだろうということも解釈は出来るのですが、この表現の中で言うのは少し違うのではないかと考えています。

最後は学研です。ここも、全くねらいが分かりません。ただ考えようというところ、しかも、これは教材の中でしか考えさせていないというところがあるので、私はそういうところを大事にして、子供たちが自分の心を見つめ直して耕すには、どうしたらいいかということが、子供も、教員も分かるような教科書であってほしいと思いました。

金子教育長)

私も感想ですが、見るからに、いじめのことをクラスの中でみんなで考えようというところで、使いやすいものとそうでないものがあると印象を持ちました。私は、現状の課題からすると、そこはとても大事だと思います。道徳本来の学ばなければいけないことももちろんありますが、それは皆さんがおっしゃった通りです。現下においては、それが大事だと私は思って、選びました。

宜しいでしょうか。

樋口委員)

1点だけ宜しいでしょうか。

金子教育長)

どうぞ、樋口委員。

樋口委員)

新しい教科になったところでは、いじめの問題とか、環境の問題とか、幾つか現代的な問題は必ず取り上げることになっているので、内容項目の中に入れ込んでいるというのは、当然のことであって、ここで、いじめを考えましょうという時間ではないので、その辺のところは誤解のないように大人がしていかなければいけないなというようには思っています。

金子教育長)

宜しければ、投票の方をお願いしたいと思います。

では、少し時間を取ります。

#### <委員投票、確認>

金子教育長)

只今ご確認いただきました通り、過半数を超えるものがございましたので、これで、道徳の教科書については、審議を終了いたします。

次ですが、入替え等もごございますので、7分程休憩を取りたいと思います。今、僕の時計で26分ぐらいですので、33分ぐらい、休憩といたします。

金子教育長)

では、お時間になりましたので、進めさせていただきます。

休憩前に引き続きまして、英語の選定資料について、まず、事務局よりご説明をお願いします。

指導課長。

#### <指導課長 資料説明>

金子教育長)

ご説明が終わりました。それでは、教科書を閲覧していただく時間を9分程取りたいと思います。宜しくお願いします。

#### <教科書閲覧>

金子教育長)

質疑応答に入って宜しいでしょうか。

皆さんからのご質問、ご意見をいただきたいと思います。宜しくお願いいたします。

村瀬委員、お願いします。

村瀬委員)

今回、いろいろな特色があります。英語は言語なので、音がとても大事になります。音が正しくないと、書いてある事が伝わらないということもあり、デジタルの方も今回も見させていただいています。やはり出版社によって少しずつ個性が違い、東京書籍は、写真もありますが、本当の子供が出てきて、お話しされる場面もあり、口がよく分かるので、

かわいいアニメが登場するものもいいですが、アニメーションの口よりは、リアルな口、発音している口が見られるという特徴があります。子供にとって、より近い存在にないといけないので、かわいらしいアニメももちろんいいと思いますが、何よりQRコードが使いやすいように作っていらっしゃるところ、子供がアクセスしやすいようになっているというのがリアルな英語を学ぶためにはいいと思いました。

ここは、デジタルの話をするところではないですが、一応、再生するボタンがとても小さくて、再生ボタンを押さないと、そこでしかスタートしないので、拡大してスタートしないといけない会社から、画面全体どこを押しても再生するよという、そういう工夫されている会社もあります。これからは、本当に使いやすいように、どこをタップしても始まる。既に登場人物を押すだけでその人がしゃべるといようなつくりをしていらっしゃる出版社もあるので、これからデジタルの充実が必要だと思います。

見た感じ、たくさんインフォメーションがある会社と比較的緩やかに作られているところとあります。私は、子供たちが主体的に、見て引き込まれやすい、そして、より使いやすいものがいいと思い、三省堂を選ぼうと思っています。

金子教育長)

他にございますか。

どうぞ、樋口委員。

樋口委員)

小学校外国語活動の学習指導要領の第1の目標の(2)に次のように書いてあります。「身近で簡潔な事柄について、外国語で聞いたり、話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合う素地を養う。」自分の考えや気持ちというところが大事だと思っています。

先程の説明の中でも、英語のところではないですが、指導課長から、話す、聞く、とりわけ話す弱いというようなお話が、言語のところでありました。やはり英語で話せる、自分も話せると思う授業をつくっていただきたいと思います。そして、話せるだけではなくて、英語で自分が思ったことを伝えたい。友達の考えを聞きたいというようになったら、言語が広がるのではないかと私は思っております。

学習指導要領の中では、小学校の段階において、聞く、話す、やり取り、それから、話す、発表、ここで自分の考えや気持ちというところが出てくると思いますが、私は、そこを大切にしていきたい。書くことが主な段階ではないと。もちろん繋ぎは必要ですから、アルファベットを正確に書けたりとか、簡単なことを書けるのはもちろんですが、限られた45分の中で、書く活動が多過ぎては、本来目的としている「話す」というところの時間が十分に取れないのではないかと思います。

また、8月1日付の、これは新聞の切り抜きですが、今回、4年に1回の英語の調査、「全国学力・学習状況調査」がありました。これは、中学校3年生の調査ではあるのですが、明らかに前回よりも低いのは、こちらに置いておいて、話すということが12.4%しかないです。そういうことも考えたときに、やはり英語で話す、英語を使うというこ

ろを、小学校段階からもっともっとトレーニングしていく必要があるということをつくづく感じます。

そういうところからいきますと、私は、今回、東京書籍が書くことがとても増えてしまって、これは少し気になりました。そういう意味を考えても、「話したいな。」「現実こういう場面ってあるよね。」など、社会的な話題を考えるときに、「こういう場面が必要だよな。」という、非常にタイムリーだったり、子供がこの場面だったら自分も参加して、世界の人と話してなんていうところも考え合わせると、光村図書はデジタルも非常によく出来ていましたし、私は評価をしたいと考えております。

金子教育長)

他にないようでしたら、投票の方に参りたいと思います。

英語について、お手元の色刷りの投票表紙で投票をお願いいたします。グレーのファイルに挟んで、机に置いてください。

#### <委員投票、確認>

金子教育長)

只今ご確認いただきました通り、過半数を超えるものがございましたので、これで、英語についての審議を終了いたします。

それでは、教科書の入替えのお時間をいただきたいと思います。

入替えが終わりましたので、家庭の選定に入ります。

それでは、家庭の選定資料について、まず、事務局からご説明をお願いいたします。

指導課長。

#### <指導課長 資料説明>

金子教育長)

ご説明が終わりました。それでは、また教科書をご覧いただきたいと思います。2冊でするので、3分程を目安をお願いいたします。

#### <教科書閲覧>

金子教育長)

そろそろ宜しければ、意見交換に入ります。宜しいでしょうか。

委員の皆さんからご意見、ご質問をいただきたいと思います。宜しくをお願いいたします。

酒井委員。

酒井委員)

2社ということで、それぞれ特色がある教科書だと思いました。開隆堂の方は、生活の、先程の紹介にもありましたが、技能の習得ということが、かなりポイントになっています。そういう生活力をつけるということが足りないお子さんも増えている中で、それを養っていくというのは非常に大事なことだと一方では思います。

東京書籍の方は、生活の工夫という言い方でまとめられています。家族でいかにやりくりしながら仲よく暮らしていくのかというトーンが強く、家族の団らんということもトー

ンが強いような気がします。それから、家庭や地域との繋がり、関わりという表現になっていて、開隆堂の方は、地域の一員という形で、そこも家族との関係のトーンが少し違うと思いました。これは好みだと思いますが、個人的には、今、家族関係で非常に難しいご家庭が多いので、家族の関係について、いま一度考えるというスタンスは非常に大事だと思います。

金子教育長)

他にございますか。宜しいですか。

樋口委員。

樋口委員)

家庭科はもう日常生活そのもので、朝起きて、夜、おやすみなさいをするまでに、いろいろな課題があつて、その課題にいかにつけるかというところが大事であり、気づいたら、それをより良くしていこうという意欲を持たせるようなところを大事にしているかどうかを見ました。

東京書籍の「いつも確かめよう」のページですとか、「私の生活大発見」のところ、生活を広く大きく俯瞰して見ているところは、非常に魅力的であります。一方、今、お話があつたように、地域との関わりのところは、開隆堂の攻め方はとても魅力的だと思って、最後の最後まで悩んでいるところでございます。

金子教育長)

他にないようでしたら、投票の方に参りたいと思います。

家庭について、お手元の色刷りの投票用紙で投票をお願いいたします。

<委員投票、確認>

金子教育長)

只今ご確認いただきました通り、過半数を超えるものがございましたので、これで、家庭についての審議を終了いたします。

入替えをいたしますので、少々お待ちください。

準備出来たようです。

それでは、音楽の審議に入ります。音楽の選定資料につきまして、事務局よりご説明をお願いします。

指導課長。

<指導課長 資料説明>

金子教育長)

ご説明が終わりました。それでは、最終的な確認の閲覧をお願いいたします。大体、目安3分ぐらいでお願いします。

<教科書閲覧>

金子教育長)

宜しいでしょうか。

ご意見、ご質問ございましたらお願いをいたします。

樋口委員、お願いします。

樋口委員)

3年生で初めてリコーダーに触れるので、リコーダーを楽しい、自分でも音が出る、きれいな音が出るというように、私になりたいと思って見えています。

こちらでは、「さあ、吹いてみよう、いい音が出せるかな」というところで、しゃぼん玉を吹くときのような雰囲気です。というところから始まっていて、シの音でお話をしましょうという、構成になっています。

一方、こちらは、リコーダーに初めましてというところから始まっていますが、「リコーダーと友達になろうよ」という喚起する言葉が上手いなと思います。何よりも大事なのは、やはりタンギングが上手く出来ないといけないので、息の使い方のところが非常に手順よく書かれています。ですから、このようにしていけば、これが注意するところなのかということがよく分かる気がします。

もう一点だけご紹介させていただくのは、「こいのぼり」という5年生の歌のところ。こちらは、盛り上がる場所を見つけよう、生き生きと歌おう、もちろん音符に、長さが違うので、そこのところは、両方とも意識をさせてはいますが、「タンタン」じゃなくて、「ターンタ」というところは、それは同じですが、片方は「盛り上がるとか、生き生きと」というように、非常に抽象的な言葉で書かれているのに対して、もう片方は、「どういうところに気をつけたらいいのか」ということが具体的に読み取れるので、そこを考えてから歌える、自分の声を出せるというところが、子供にとってはありがたいのではないかと思います。

ということで、私は、教育芸術社を評価させていただきます。

金子教育長)

これ以上ないようでしたら、音楽については、お手元の色刷りの投票用紙で投票をお願いいたします。

#### <委員投票、確認>

金子教育長)

只今ご確認いただきました通り、過半数を超えるものがございましたので、これで音楽についての審議を終了いたします。

以上で、本日の審議については終了いたしますが、事務局から連絡等ございますか。

庶務課長。

庶務課長)

お疲れさまでした。

本日配付いたしました資料ですが、そのまま事務局で保管させていただきますので、机上に置いていただければと思います。宜しく願いいたします。

金子教育長)

それでは、以上で、本日の審議を全て終了させていただきます。  
次回は、明日、8月9日水曜日、10時から、ここ、同じ会議室で開催をいたします。  
委員の皆様、傍聴の皆様、長時間にわたり、お疲れさまでした。ありがとうございました。  
た。

(午後15時55分 閉会)